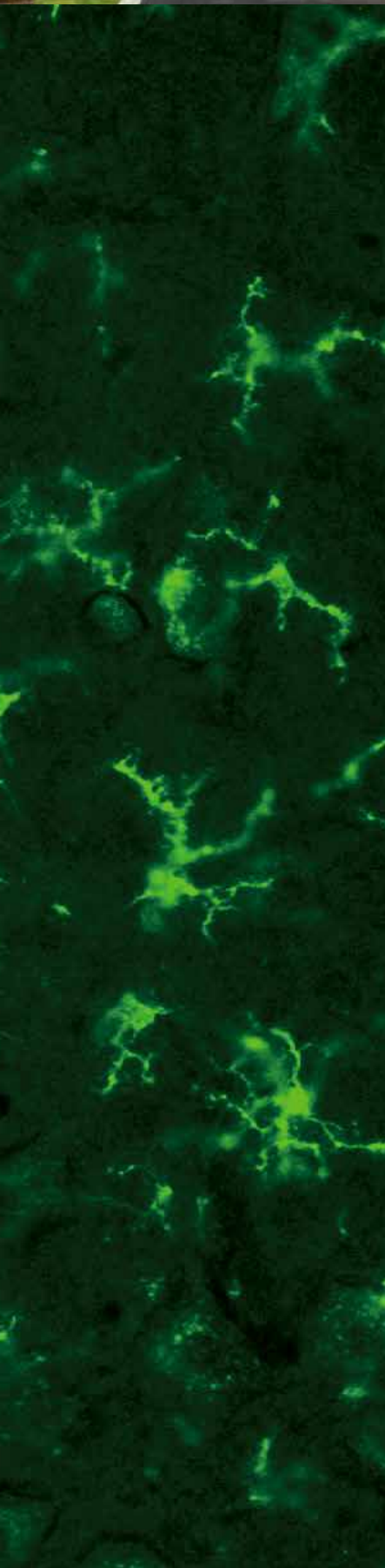




国立研究開発法人

国立精神・神経医療研究センター

National Center of Neurology and Psychiatry

世界で活躍する専門家による、めざましい研究成果
緑の風薫る病院でのやさしい医療の提供
研究所と病院が一体となり疾患克服をめざす



国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター
理事長 水澤 英洋

—精神と神経の病を克服する—

「21世紀は、脳とこころの時代」と言われますが、国立精神・神経医療研究センター（NCNP）は、その「脳とこころ」、そして「神経と筋」の病気を克服するために作られた、研究所と病院を合わせもつ研究開発センターです。このナショナルセンターの特色は、研究所と病院が同じキャンパスに存在するだけでなく、研究所と病院が密接に連携して、治りにくい精神・神経疾患等の病因・発症機序の解明、診断法の確立、新規治療法の開発、モデル医療の展開および精神保健の向上に取り組んでいるところにあります。

—疾患に立ち向かうための進化—

私たち、NCNP は、現在、医療の未来を見据えた構想の実現に向けて、施設や体制の改革を行うとともに、新たな研究基盤や研究開発に必要な組織の整備を進めています。2010 年の新病院の竣工と相前後して、病院と研究所の有機的な連携を具体化するための橋渡しの組織「トランスレーショナル・メディカルセンター（TMC）」を立ち上げ、翌 2011 年に、最先端の脳画像機器と専門家による脳病態の解明や治療・診断技術開発を行う「脳病態統合イメージングセンター（IBIC）」とともに、精神科治療において薬物療法と並んで有効性が認められている「認知行動療法」の専門家の育成と普及をはかる目的で「認知行動療法センター（CBT）」を稼働させました。更に、2015 年には、ゲノム情報を利用した新たな診断・治療法の開発と臨床応用及びバイオリソースの利活用を推進する「メディカル・ゲノムセンター（MGC）」を立ち上げました。

また、病院と研究所の連携体制の具現化のひとつとして、個々の疾患に関わる臨床医、研究者、コメディカルで構成される「専門疾病センター」も開設し、より専門的な疾患治療と新しい治療法の開発研究への一体的な取り組みが始まっています。

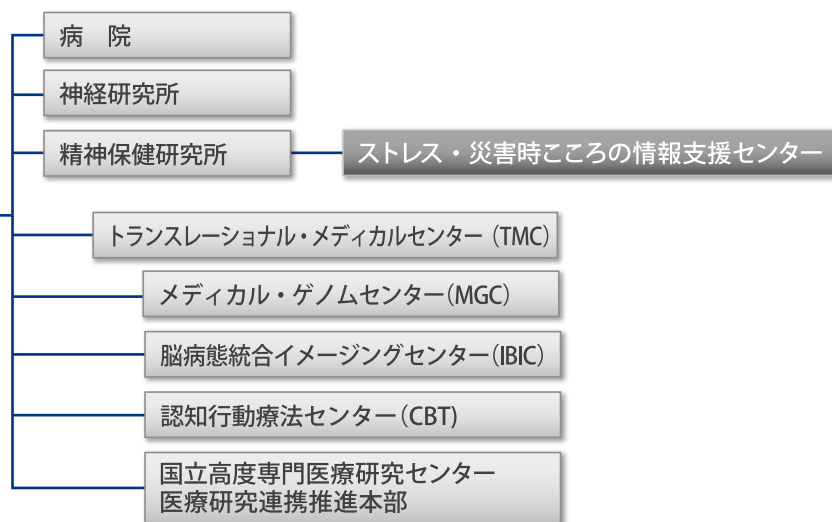
—THE ONLY ONE としての使命—

精神、神経、筋、発達障害の 4 領域が同じ施設において協同し協力するセンターは、世界のどこにもありません。私たちはこの「世界にひとつだけのセンター」であることを誇りとして、病苦と闘っておられる患者さんに、先端医療、疾患を克服できる医療を、一日も早く届けられるよう全力で取り組む所存です。これからも皆様のご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

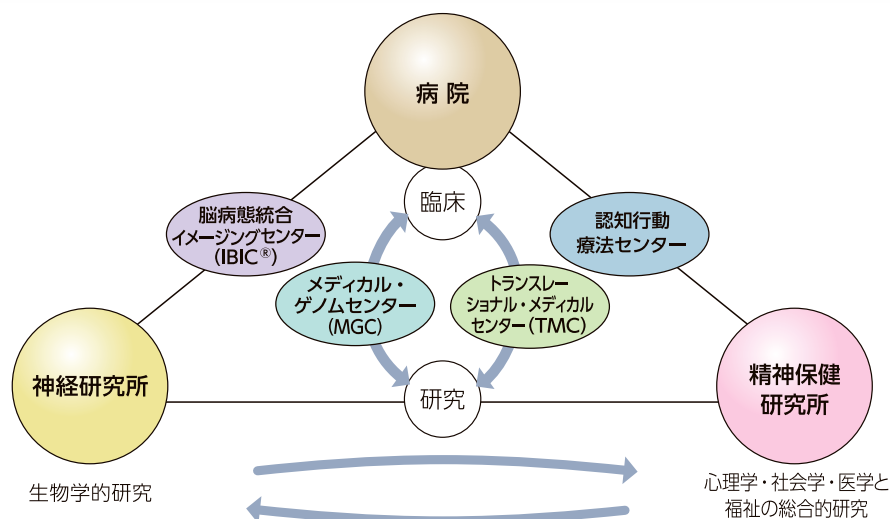
施設構成



国立精神・神経医療研究センター



精神・神経・筋の疾病、発達障害の克服のために、
医療と研究が一体となった
高度医療研究センター



使命 Mission



研究・開発

高度医療研究センターとして、精神・神経疾患等の臨床研究推進のための中核的役割を担い、基礎研究はもとより、臨床研究、治験の円滑な実施を行っていきます。また、多くの外部施設との共用研究基盤整備を行い、研究資源の適切な活用を実現する司令塔機能を果たすこと等を通じて、国際水準の研究成果を継続的に創出することを目指しています。

医療の提供

精神・神経疾患等の研究成果を活かし、患者の皆様の生活の質の向上を目指した医療を提供します。特に、希少疾患や重症・難治性疾患等については、症例、臨床情報の集約を行い、高度先駆的な医療を提供していきます。また、これらの疾患の特性による、患者さんのご家族や介護者等の身体的、精神的、経済的負担等にも配慮した支援も行っていきます。

人材育成

レジデントや流動研究員等への充実した教育・指導システムによって、専門性を有するリーダー的人材の養成を進めるとともに、医療従事者等に対する各種モデル的研修・講習の実施を推進しています。また、地域医療の指導的役割を担う人材や臨床研究の推進者を育成し、医師、研究者以外の職種にも対応した課程の整備にも着手しています。

情報発信

精神・神経疾患等に関する基本情報や、予防・診断・治療法等について、様々なメディアや関係機関を通じて、適切な情報発信を行っています。また、特に災害等の緊急時においては、蓄積した信頼性の高い研究成果に基づく実用性のある情報提供を迅速に行っています。

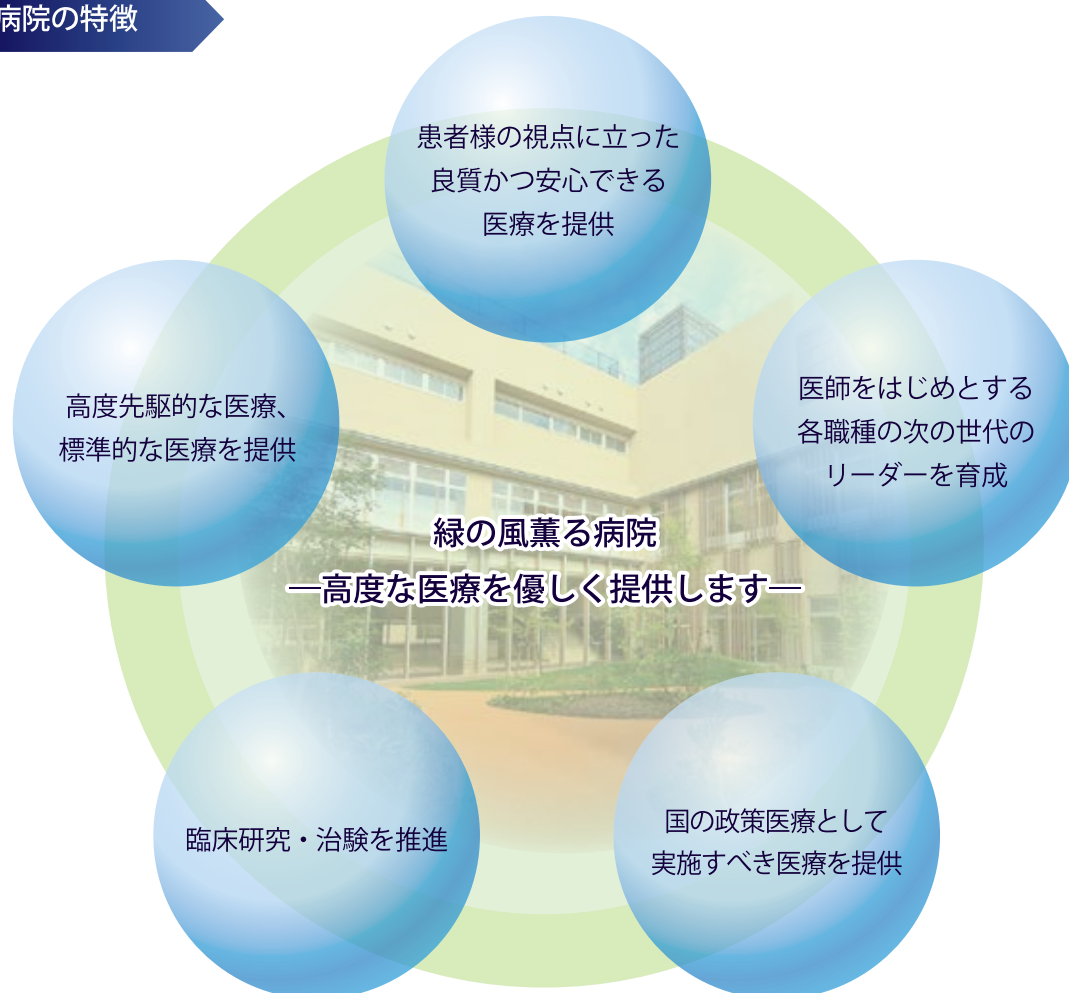
政策提言

精神・神経疾患等に関する政策の企画・立案に関して、先行研究の分析、疫学研究、臨床研究等により、様々なサポート・貢献をしています。また、医療政策や自殺対策等の緊急性の高い課題に対し、国内外での研究成果や実態調査結果等に基づく、専門的な政策提言を行っています。

研究所と一体となって診療と研究に取り組み、 精神・神経・筋疾患と発達障害の克服を目指す

センター病院は、脳および神経・筋肉の病気の原因を解明し、診断・治療を発展させるため、日本の研究と医療をリードする役割を持った病院です。これらの脳や神経・筋の疾患の中には、病気の原因が分からず治療法も乏しい難病も数多く存在しています。また、これらの病気に罹ったために仕事や日常生活が妨げられて「生活の質 (QOL)」が低下して困っている方も大勢います。私たちは、これらの心や精神の病気、神経の病気、運動が妨げられる筋肉の病気、発達障害をもつ患者様に対して、人権を尊重しながら誠意をもって、高い医療技術を提供していきます。

当病院の特徴



屋上庭園

多職種カンファレンス

LSVT®LOUD

個室特室



部門構成

第一精神診療部

第二精神診療部

脳神経内科診療部

小児神経診療部

療育指導室

脳神経外科診療部

総合内科部

栄養管理室

総合外科部

外来部

遺伝カウンセリング室

手術・中央材料部

医療機器中央管理室

放射線診療部

臨床検査部

睡眠障害検査室

遺伝子検査診断室

身体リハビリテーション部

精神リハビリテーション部

医療連携福祉部

医療連携福祉相談室(患者サポートセンター)

国際医療連携室

臨床研究推進部

臨床研究・治験推進室

研究管理・調整室

臨床心理部

臨床心理室

薬剤部

看護部

専門看護室

医療情報室

専門疾病センター

パーキンソン病・運動障害疾患(PMD)センター

筋疾患センター

多発性硬化症(MS)センター

てんかんセンター

こころのリハビリ地域支援センター

睡眠障害センター

統合失調症早期診断・治療センター(EDICS)

気分障害センター

認知症センター

嚥下障害リサーチセンター

薬物依存症センター

専門外来

てんかん

てんかん外科

もの忘れ

気分障害

精神科デイケア

睡眠障害

修正型電気けいれん療法(mECT、r TMS)

飲みこみ

過敏性腸症候群(IBS)

薬物依存症

セカンドオピニオン(精神科、神経科、小児神経科、脳神経外科)

遺伝カウンセリング(自費)

統合失調症

認知行動療法

臨床ゲノム

教育・研修室

医療安全管理室

感染防止対策室

手術室



スタッフステーション



レントゲン室



小児外来



精神・神経・筋疾患・発達障害の本質的解明という
難題に取り組み、診断・治療・予防に
真のブレイク・スルーをもたらす

世界トップクラスの精神・神経・筋疾患・発達障害の研究機関

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センターの神経研究所は、高度専門医療センターの研究機関として、原因や治療法がわからないさまざまな精神・神経・筋疾患・発達障害の病気を対象として、それらの診断・治療・予防法の開発を目指した生物学的研究をおこなっています。分子細胞生物学的アプローチを中心に、生理学や脳イメージングも積極的に取り入れ、特に橋渡し研究や臨床研究に繋がるシーズを生み出す研究に重点を置いています。

世界でも類を見ない実験動物施設群

広大なセンター敷地内に、小型実験動物棟と総合実験動物棟の2つの動物実験棟を有し、総合実験動物棟の中は、中型動物実験施設・霊長類研究室と小型動物研究室の3つの施設に分かれています。

小型実験動物棟を合わせた4種の動物実験施設によって、マウス、ラットのみならず、筋ジストロフィーの研究に欠かすことの出来ない筋ジストロフィー犬、マウス・ラットに比してヒトの精神・神経疾患の研究に必要な高次脳機能を持つマーモセット等の霊長類を用いる研究まで、センター内で行うことができます。これらの動物関連施設は、世界でも稀有なスケールを誇ります。

開放的で国際的な研究環境がいざなう多彩な研究陣

神経研究所では、常勤定員制の研究者に加え、国内・海外を問わず多様な研究員受け入れ制度の導入によって、優秀な人材を集めることに成功しています。また、早稲田大学、千葉大学、山梨大学等多くの大学と連携大学院制度を締結し、若くエネルギーに満ちた大学院生を受け入れ、斬新なプロジェクトを最先端の機器と手法を用いて研究しています。そして、その開放的な環境を背景に、様々な分野の研究者が有機的に連携して貴重な研究成果をあげています。国内はもとより、米国、欧州、アジア諸国等からも研究員が集まり、また、ハーバード大学やマックスプランク研究所等、海外機関との共同研究にも盛んに取り組んでいます。



重要な SEEDS (臨床研究の種) を見だし、
短期間で治療法へとつなぐ



7つの疾病研究部門

疾病研究第一部	筋疾患の病態解明と治療法開発を目指す
疾病研究第二部	発達障害の生物学的理解と、診断・予防・治療法の研究
疾病研究第三部	統合失調症と躁うつ病への脳科学的アプローチ
疾病研究第四部	パーキンソン病や認知症など神経・精神疾患の根本治療を目指す
疾病研究第五部	神経変性・再生メカニズムの解明と神経保護的疾患治療法の開発
疾病研究第六部	アルツハイマー病などの認知症の病態解明と治療法の開発
疾病研究第七部	統合的イメージングをもちいた脳病態生理の解明と情報医療の開発

7つの基盤研究部門

病態生化学研究部	高度で精緻な脳の形成の分子機構の研究
微細構造研究部	神経回路の発生・発達と高次脳機能発現の仕組みの研究
遺伝子疾患治療研究部	遺伝子治療、幹細胞治療を中心とした神経筋疾患治療を目指す
代謝研究部	神経細胞とグリア細胞の機能を支える分子基盤の研究とその疾患への応用
免疫研究部	脳自己免疫疾患(特に多発性硬化症)の治療法開発を目指す
神経薬理研究部	新規伝達物質の探索、アルツハイマー病遺伝子の解析、診断・治療法開発
モデル動物開発研究部	行動発現の脳内機構とその病態を理解する

研究サポートユニット

実験動物管理室

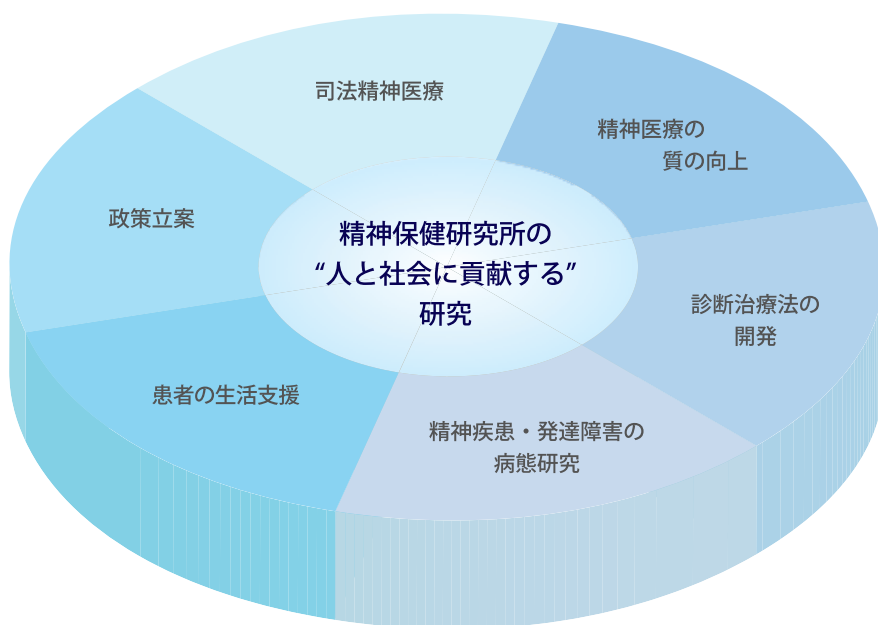
ラジオアイソトープ管理室

霊長類管理室

国民のメンタルヘルスに関わる臨床的・基盤的研究成果を政策立案に資する提言及び医療と福祉を通じて還元し、精神疾患、重度ストレス、発達障害をもつ人々を支える



精神保健研究所では、精神疾患や発達障害の病因を明らかにするため、心理・社会・生物学的な視点から国際的にもトップクラスの研究を行っています。また、精神医療の向上のため、センター病院、全国の医療機関、行政機関と連携し、高度先駆的な診断と治療法の均てん化を推進しています。研究成果を広く医療関係者や国民に還元するため、専門研修や一般向け講演等を精力的に行っています。



研修風景



精神鑑定を扱った模擬裁判



多職種アウトリーチチーム

精神保健研究所のミッション

研究を通じて“人と社会への貢献”を実現する

1. 精神保健の政策的研究(国や自治体等への政策提言)
2. 基盤的な脳科学の研究(精神疾患・発達障害の病態生理研究)
3. 臨床還元型研究(診断, 治療, リハビリテーション, 社会復帰研究)
4. 法制度関連の研究(刑事事件, 成年後見, 薬物乱用・依存等の課題の解決)
5. 災害時の精神医療支援
6. 精神医療・精神保健に関わる専門性の高い人材の育成



基盤的研究の推進

研究の成果を政策へ

精神医療政策研究部	国内ビッグデータなどの集計を通じた精神保健医療福祉の現状把握、施策評価、臨床疫学研究等を通じた政策立案への貢献
薬物依存研究部	薬物乱用・依存の実態把握と依存性薬物の作用機序研究を通じた薬物対策への貢献
地域・司法精神医療研究部	精神障害者の地域生活を支援する、効果的なサービス・システムの開発と実証研究を通じた制度設計への貢献

研究の成果を臨床へ

行動医学研究部	ストレス、トラウマに関連したPTSD、不安症等の精神疾患、心身症、摂食障害の病態解明、治療研究
児童・予防精神医学研究部	精神障害の早期発見・介入法と予防・治療法の開発、および児童から青年期における精神障害の病態解明
精神薬理研究部	分子薬理学・行動科学・神経科学・精神医学の連携による脳病態の理解と新規薬物療法の開発
精神疾患病態研究部	統合失調症、気分障害、発達障害等の病態解明と診断法・治療法の開発、精神科治療ガイドラインの普及・教育・検証活動
睡眠・覚醒障害研究部	睡眠・覚醒障害および生体リズム障害の病態解明、精神身体機能への影響の解明、高精度な診断・治療法の開発
知的・発達障害研究部	知的障害、自閉スペクトラム症、ADHD、学習障害等の発達障害の病態解明、早期診断と新規治療法開発

情報発信と人材育成

ストレス・災害時こころの情報支援センター	災害、犯罪被害等の重篤なストレスを生じる事態についての調査研究、対処法の開発、指針の作成
----------------------	--

研修及び啓発

- ・専門知識習得のための数日間単位の講座を定期的に開催
- ・全国の都道府県から推薦を受けた年間1,000名程度の受講者が受講

災害時PFAと心理対応研修	精神保健指導課程研修
薬物依存臨床医師研修	薬物依存臨床看護等研修
認知行動療法の手法を活用した薬物依存症に対する集団療法研修	摂食障害治療研修/摂食障害看護研修
発達障害支援医学研修	発達障害地域包括支援研修(早期支援/精神保健・精神医療)
精神障害者地域包括支援研修	多職種による包括型アウトリーチ研修
医療における個別就労支援研修	地域におけるリスクアセスメント研修

精神・神経・筋・発達障害領域の疾患で悩む方が、
新しい医療を享受できるようにするために、
グローバル臨床研究、革新的医薬品の創出、人材育成を推進する



トランスレーショナル・メディカルセンターは、病院と研究所との橋渡しを担います。
私たちの役割は、最先端の研究成果を臨床応用に結び付けることと同時に、臨床疑問を基礎研究や臨床研究として展開していくことです。そして、臨床研究に関わる人材育成にも積極的に取り組んでいます。

臨床試験の推進

- ・医師主導型臨床試験
(早期探索的臨床試験も含む)
の企画・計画
- ・海外研究機関との臨床試験計画の調整
- ・プロジェクト・マネジメント
- ・患者レジストリの開発



セミナー風景

TMCの活動



TMC 棟・
クラスター研究棟

臨床研究環境整備

- ・臨床研究の立案、計画ならびに薬事等の簡易相談と支援
- ・臨床疫学及び生物統計学的支援
- ・筋ジストロフィー臨床試験ネットワーク
- ・倫理講座

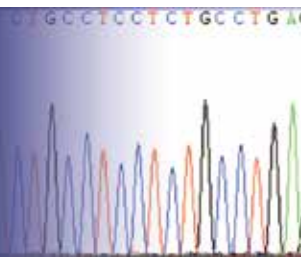


入門講座
ワークショップ風景

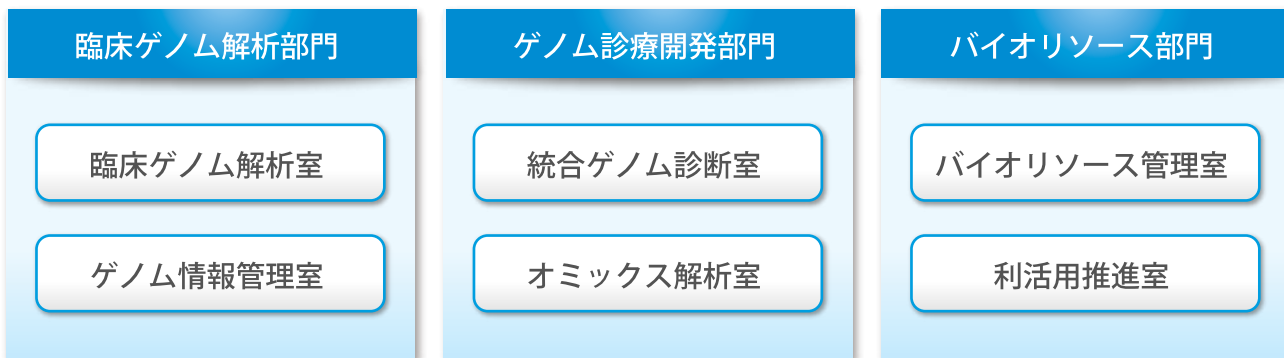
人材育成

- ・臨床研究・ワークショップ
- ・若手育成カンファレンス
- ・若手研究者フェローシップ制度
- ・プロトコル作成特訓セミナー
- ・遺伝勉強会
- ・遺伝カウンセリングセミナー

精神・神経・筋・発達障害領域のバイオリソースの
利活用を推進し、ゲノム情報を利用した新しい診断法・
治療法の開発と臨床応用をめざす



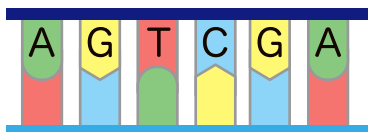
組織構成



メディカル・ゲノムセンターは、「遺伝子・ゲノム情報」と「バイオリソース」を臨床情報と結びつけて保存・活用し、付加価値の高い研究資源として、新しい診断法、治療法、予防法を開発し、それを臨床応用します。病院、研究所、TMCと連携して、事業を進めてゆきます。

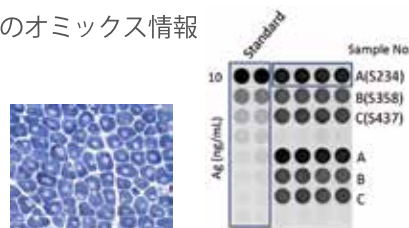
ゲノム解析を用いた探索医療開発

- ・ゲノム情報の取得と解析
- ・臨床情報との連結を含めたデータ管理
- ・ゲノム情報の臨床的有用性の検証
- ・遺伝子・ゲノム研究の倫理



ゲノム医療の実践

- ・ゲノム・遺伝子診断の開発、応用
- ・病理学等の評価を加えた統合的ゲノム診断の開発、応用
- ・ゲノム以外のオミックス情報の利用
- ・人材育成



NCNP バイオバンク

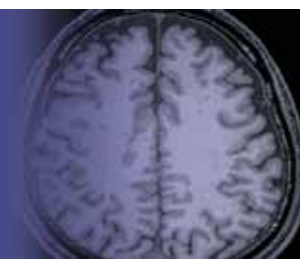


バイオリソースの管理と利用

- ・バイオリソースの収集・登録・保存
- ・バイオリソースに関する情報の管理
- ・バイオリソースの利活用の推進



さまざまなイメージング技術の特長を活かした
統合的画像診断法を開発し、脳病態生理の解明を目指す

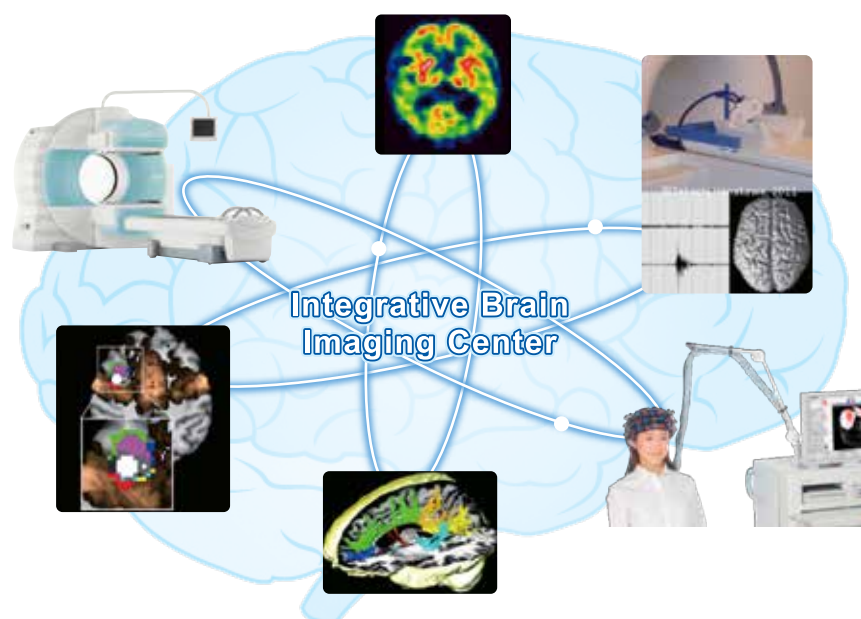


脳病態統合イメージングセンターは、NCNP の二つの研究所並びに病院と密に連携し、精神・神経・筋疾患、発達障害に対する統合的イメージング研究を推進しています。また、イメージングをもちいた多施設共同研究の中核施設として、わが国の臨床画像研究を牽引します。

組織概要	
先進脳画像研究部	画像情報研究部
- 統合脳画像研究室 - モデル動物画像研究室 - 放射性トレーサー研究室 - 神経生理研究室 - 神経情報工学研究室	- 臨床脳画像診断研究室 - 臨床光画像研究室 - 画像情報解析研究室 - 画像データベース研究室

統合的イメージング研究の推進

イメージング技術は、それぞれが異なる長所と短所を持っています。磁気共鳴画像 (MRI)、ポジトロン断層像 (PET)、脳磁図 (MEG)、近赤外光トポグラフィー (NIRS) など、複数の脳イメージング技術を有機的に組み合わせることにより、脳の機能と構造を明らかにする新しい画像診断技術を開発し、脳病態生理の解明に迫ります。

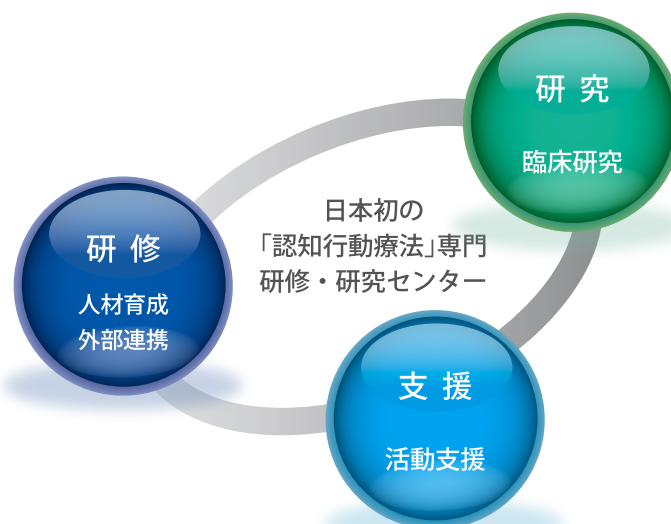


脳画像ネットワークの構築

イメージングを用いた多施設共同研究のためのオンライン・サポーターシステム「IBISS」と脳画像データベースを構築し、全国的な臨床脳画像研究ネットワークのハブとして機能するとともに、臨床画像教育にも貢献します。



薬物療法と並ぶ精神疾患治療法
— 認知行動療法 —
の専門家を育て、提供する使命を担う



認知行動療法センター (CBT センター) は、日本初の「認知行動療法 (CBT)」を専門とする研修・研究センターです。私たちは、国内最先端の認知行動療法の研究と研修を通じて、日本の精神医療技術の向上と、よりよい精神医療サービスを患者様に提供できる社会の実現を目指しています。

人材育成

- CBT の専門家、指導者の育成
＝内外の医療施設での臨床訓練
(医師、心理士、看護師等)
- CBT の一般診療現場での活用推進
＝CBT 研修 (精神疾患、がん患者ケア、生活習慣病等)
- 地域の精神保健・医療・福祉関係者への研修

臨床研究

- CBT 治療マニュアル (うつ病、不安障害、不眠、統合失調症等) の策定・実施と効果の検証
- CBT の教育方法と効果の検証
- 地域・職域、教育・司法における CBT 活用法の研究
- 治療メカニズムの解明

外部連携

- 国内主要大学
- McLean Hospital 等の海外主要医療機関
- 【国際認定機構】
Academy of Cognitive Therapy
International OCD Foundation

活動支援

- 地域、職域、学校における心の健康活動の支援
- 情報提供
- CBT 面接 (個人、集団、家族) の提供

認知行動療法 (CBT : Cognitive Behavioral Therapy) とは

ストレスによる気分の落ち込みや身体的な反応等に対して、認知行動科学の諸理論や行動変容の諸技法を用いて、それらを患者自身がセルフコントロールできるようにすることで、症状の改善や再発予防につなげることを目的とした治療法。

センター概要／沿革

Outline / History



NCNPのシンボルマークについて
中央には、患者様の生命(こころ)を表す赤い円を、その左には「Institutes (研究所)」の頭文字「I」を、そして、右には「Hospital (病院)」の頭文字の「H」を配し、研究所と病院が一体となって精神・神経疾患等の克服を目指し、患者様を守っていく理念を表現しています。「青」はこころを律する色であり、また精神を安定させる効果があるともいわれ、平和で穏やかな色でもあることから、基調色として使用しています。



研究所本館



研究所3号館



総合実験動物棟

概 要

名 称	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター		
設 立	平成 22 年 4 月 1 日		
理 事 長	水澤 英洋	監事 (非常勤)	林 哲治郎
理 事	中込 和幸		増田 正志
理事 (非常勤)	池淵 恵美		
	鈴木 道夫		
理事長 病院長 神経研究所長 精神保健研究所長 トランスレーショナル・メディカルセンター メディカル・ゲノムセンター長 脳病態統合イメージングセンター長 認知行動療法センター長	水澤 英洋 中込 和幸 岩坪 威 金 吉晴 小牧 宏文 後藤 雄一 堀越 勝		

沿 革

病院	昭和 15 年 12 月 昭和 20 年 12 月 昭和 53 年 1 月 昭和 61 年 10 月	傷痍軍人武蔵療養所として設立 厚生省に移管、国立武蔵療養所として発足 研究センター(国立武蔵療養所・神経センター)を併設 国立精神衛生研究所を統合し、国立精神・神経センターを設置
神経研究所	昭和 53 年 1 月 昭和 61 年 10 月	国立武蔵療養所・神経センターとして設立 国立精神・神経センター設置により、神経研究所に名称変更
精神保健研究所	昭和 27 年 1 月 昭和 61 年 10 月	国立精神衛生研究所として設立 国立精神・神経センター設置により精神保健研究所に名称変更
センター	昭和 61 年 10 月 昭和 62 年 4 月 昭和 62 年 10 月 平成 11 年 4 月 平成 12 年 4 月 平成 15 年 10 月 平成 17 年 3 月 平成 17 年 7 月 平成 18 年 10 月 平成 20 年 4 月 平成 20 年 10 月 平成 22 年 4 月 平成 22 年 9 月 平成 23 年 4 月 平成 23 年 12 月 平成 26 年 7 月 平成 27 年 4 月 平成 27 年 5 月 平成 28 年 4 月 平成 29 年 10 月 平成 30 年 4 月 令和 2 年 4 月	国立武蔵療養所、同神経センター、国立精神衛生研究所を統合し、国立精神・神経センターを設置 国立国府台病院を統合し、武蔵療養所から武蔵病院に名称変更 神経研究所に遺伝子工学研究部を新設 精神保健研究所に心身医学研究部を新設 精神保健研究所の精神薄弱部を知的障害部に名称変更 神経研究所に遺伝子疾患治療研究部を新設 精神保健研究所に司法精神医学研究部を新設 精神保健研究所が小平地区へ移転 全国で初の医療観察法病棟(8病棟)を新設 精神保健研究所に自殺予防総合対策センター開設 国府台病院は国立国際医療センターへ組織移管 武蔵病院は国立精神・神経センター病院に名称変更 トランスレーショナル・メディカルセンター(TMC)発足 独立行政法人国立精神・神経医療研究センター設立 センターとして2つ目の医療観察法病棟(9病棟)を新設 センター新病院竣工 脳病態統合イメージングセンター発足 認知行動療法センター発足 精神保健研究所に災害時こころの情報支援センター開設 教育研修棟竣工 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センターとなる メディカル・ゲノムセンター(MGC)発足 訪問看護ステーションを設置 病院に司法精神科臨床研究センターを設置 精神保健研究所に自殺総合対策推進センターを設置 社会精神保健研究部が精神疾患病態研究部に名称変更 精神保健研究所が組織改変 自殺総合対策推進センターが別法人化 国立高度専門医療研究センター医療研究連携推進本部を設置



国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
National Center of Neurology and Psychiatry (NCNP)

基本理念

病院と研究所が一体となり、精神疾患、神経疾患、筋疾患、
及び発達障害の克服を目指した研究開発を行い、その成果をもとに
高度先駆的医療を提供するとともに、全国への普及を図る。

Philosophy

Our hospital and institutions should work together in research and
development to overcome mental disorders, neurological and
muscular diseases, and developmental disorders with the mission to
use our research results for providing advanced medical services and
to spread our services across the country.



〒187-8551 東京都小平市小川東町 4-1-1 [事務部門・病院]

〒187-8502 [神経研究所]、〒187-8553 [精神保健研究所]

TEL: 042-341-2711 [代表]

<https://www.ncnp.go.jp/>

〒187-8551 4-1-1 Ogawa-Higashi, Kodaira, Tokyo (Administration Office, Hospital)

〒187-8502 (National Institute of Neuroscience)

〒187-8553 (National Institute of Mental Health)

TEL: 042-341-2711

交通アクセス / Access Map

- ◆西武新宿線拝島行または
西武遊園地行にて
「萩山駅」(南口)下車、徒歩 7 分
- ◆JR 中央線国分寺駅乗換え、西武多摩湖線
「萩山駅」下車、徒歩 7 分
- ◆JR 武蔵野線「新小平駅」下車、
徒歩 10 分
- ◆Get off the train bound for Haijima or
Seibu Yuenchi at
Hagiyama Station (South exit)
on the Seibu Shinjuku Line,
7-minute walk from the station.
- ◆Change the train at Kokubunji Station
on the JR Chuo Line.
Get off the train at Hagiyama Station
on the Seibu Tamako Line,
7-minute walk from the station.
- ◆Get off the train at Shin-Kodaira Station
on the JR Musashino Line,
10-minute walk from the station.

